

第 77 回結核予防全国大会 決議文

我が国における 2024 年の新規登録結核患者数は 10,051 人、罹患率 10 万対 8.1 と低まん延状態を維持したものの、それぞれ前年と比べてわずかな減少または横ばいにとどまった。80 歳以上の高齢者が 4 割を占めていること、また、外国出生患者の増加が大きな課題となっている。

高齢者が結核に罹患しても典型的な症状に乏しく合併症により重症化するリスクが高い。とくに後期高齢者の増加を踏まえれば、より一層十分な対策を継続する必要がある。一方、言葉の壁や文化の違いを背景に持つ外国出生患者に対しては、広く社会における多文化共生に対する理解の下に患者中心の対策をさらに推進する必要がある。以上から、情報のデジタル化、病原体サーベイランス体制の確立等結核対策の強化、結核医療体制の再編及び質の確保、さらに世界的に進捗が著しい新薬や新技術の導入などの多くの課題に対応する必要がある。

世界に目を転じると、WHO の統計では世界の推計患者数は 1,070 万人、死亡者数は 123 万人であり、新型コロナウイルス感染症（以下「コロナ」という。）に代わり結核は再び感染症の死因の第 1 位になった。呼吸器感染症による新たなパンデミックの出現が危惧されている中、結核は今もなお世界の公衆衛生上の重要な課題である。一方で、国際的な支援体制の枠組みが変容し、対策の推進を阻害する事態も発生している。このため、さらなる国際的な連携の下に、こうした課題を乗り越え、革新的技術の開発及び導入を取り入れた結核終息戦略の進展が求められる。

以上のような状況を踏まえて、国・自治体・医療機関・結核予防会、そして地域社会を結びつけてきた全国結核予防会支部及び婦人団体連絡協議会が連携し、究極の目標である「結核根絶」に向けて、科学的根拠に基づく結核・呼吸器感染症対策を、国際協力、市民参加、産官学連携のもとにより一層推進していくことが不可欠である。よって本大会は、関係団体が力を合わせ、次の 4 項目について不断の努力を行うことを決議する。

一、結核根絶を目指して高齢者・外国出生者などハイリスクグループに重点を置いた予防啓発、適切なスクリーニングの実施、有症状者の早期受診・早期の診断治療の確保、患者中心の服薬支援体制の強化のための医療・対策を一層推進すること。

一、コロナ対応で得られた知見を踏まえ、結核を含む呼吸器感染症の診療が適切に実施されるよう、医療提供体制や公衆衛生部門の機能強化を促進すること。

一、産官学連携による革新的な診断・治療技術の開発と導入に積極的に取り組み、日本の結核対策の知見を生かして、国際協力をさらに推進し、世界の結核終息の達成に貢献すること。

一、全国結核予防婦人団体連絡協議会は、関係団体と協力して、結核および呼吸器感染症に関する正しい知識の普及・啓発活動を推進するとともに、複十字シール運動をより効果的かつ広範囲に展開し、その活性化を図ること。

令和 8 年 3 月 18 日
第 77 回結核予防全国大会